

～自ら考え行動する組織～

澁消式火災防御戦術

澁川市消防本部



概要

- 他団体と交流をしている(人数、団体数:確認)為情報交換や人材交流が可能
- 広域で1市1町1村を管轄:東西南北5か所に支所(計**114338**名**45880**世帯)
- 女性職員3名 職員**165**名:伊香保旅館周辺の人材は厚い

消防署の構成



澁川広域消防本部の勤務体制

職員定数 165名（職員数158名＝派遣職員含む）

消防本部 21名（総務・警防・予防）

本 分	署	第1課	24名	第2課	24名
	署	東分署	19名	西分署	22名
		(1係・2係)		(1係・2係)	

南分署 18名 北分署 19名
(1係・2係) (1係・2係)

以上の人数で渋川広域の地域住民を守ってます

負のスパイラル

- 当時、疑問を持たず鵜呑みにする傾向
- 何も言わない、何も考えない負のスパイラル
- 災害が始まってから現場で考えていたため、想定外が多くなりすぎた

契機H23

- 毎日の目標:『何をしたい』『何をしなければならない』
⇒答えられないと『何も考えずに仕事に来たことを一喝』
- 意識改革
⇒言わなくても考える雰囲気と意識改革が進む
管理職が否定を無くし、やらなかったことにのみ指導した
- 開発目的: 渋消式火災防御
現場効率の向上

成功例/失敗例

- ベクトルの統一
- 先着隊への確実な情報
- 戦術のパターン化
- 統一が難しい
- やる気のない発言が多い
- 注意点として
工事火災では迅速が危険になることも

取り組み

- 戦術のパターン化
- 資材などの改良: 検証
- 訓練検証の反復し全支所に配信(共有と検証)
- 車両にあった資機材の積載方法の改良
- カタログの性能や戦術の文献は鵜呑みにせず、
全て実測値で記録する
⇒参考にはなるが、環境、人員数などで変わる為
- 未来の体調の育成のために中堅が後部
座席で支持
- 時間がないではなく時間は作るもの
⇒スケジュールの効率化: 無駄な時間を
無くした(全員の前で発表)
- 車両管理を毎日のパーツ事にワックスが
けに変更し、細かいねじのゆるみなども見
つけられるようになった。

取り組み2

- 新任職員を素早く認識するために**S**マークを張る(1人での活動もある)上司がすぐにサポートできる形づくり
- 指揮車の有効活用: 必要資器材を積載し負担軽減を図る。(少人数対策)
- 消防水利のマスター: 平均点**80**点以上で防火水槽**193**か所中**156**か所合格
- 地域住民との付き合い: 掃除などを通し地域住民と交流することで『苦情が一切なくなった』

人材育成

- 7パターンの全員に周知は難しいので、動画をさばーに**UP**し共有をし、周知教育を図っている
- 副隊長制度
職員教育の一環として朝の申し送りでも役職関係なく副隊長に指名し実施
若い副隊長がに責任感が生まれる
メリット: 若い意見が反映される。仕事を覚えられる。そして責任感が生まれる
⇒ 隊長が責任を持つ
- 申し送り?
⇒ 隊ごとでの申し送りを廃止し、全体で申し送りをする＝共通認識

集中訓練

- **YOUTUBE**で公開
⇒座学担当は3～4年目職員

他機関との連携

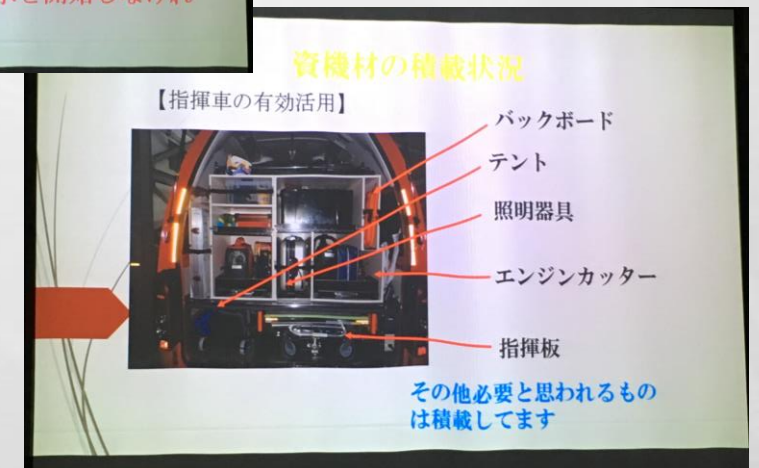
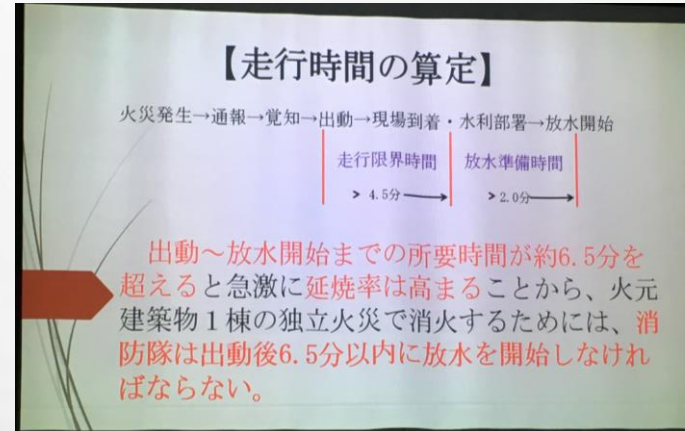
- 単隊では行わないで全隊で行う
- ボート操縦訓練
- 警防活動効果確認訓練
⇒各署持ち回りで行う
- 水圧で水が湿ってくるので、火の粉などによるダメージがない。(プロファイター**A**)

渋消式とは？

- 水利の活用方法
⇒水利調査や消火栓の圧をチェックして、
立地によってのデータベース化をしている。
『SCに連携可能？？』
- 少人数での合理的な活動
- パターン化されている消火戦術
- 延焼限界距離の算出
⇒隣棟間隔の最小値と木材の着火温度
⇒平均値をとり**10.7M**としている
- 延焼危険と建蔽率
- 延焼阻止：隣棟間隔が狭い場所では、どれだけ早く放水するかがカギになる。

渋消式：データベース例

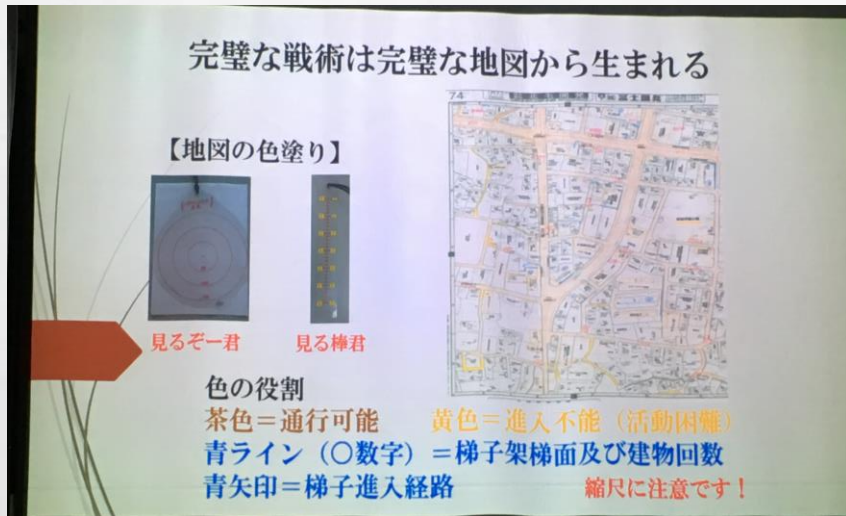
- 放水準備時間は2分
- 走行限界時間**4.5分**
- 署所担当面積は毎分**500M**【実測している】
- **6.5分**以内に放水開始
- 防火対象物から消防水利までの距離は**140M**以下



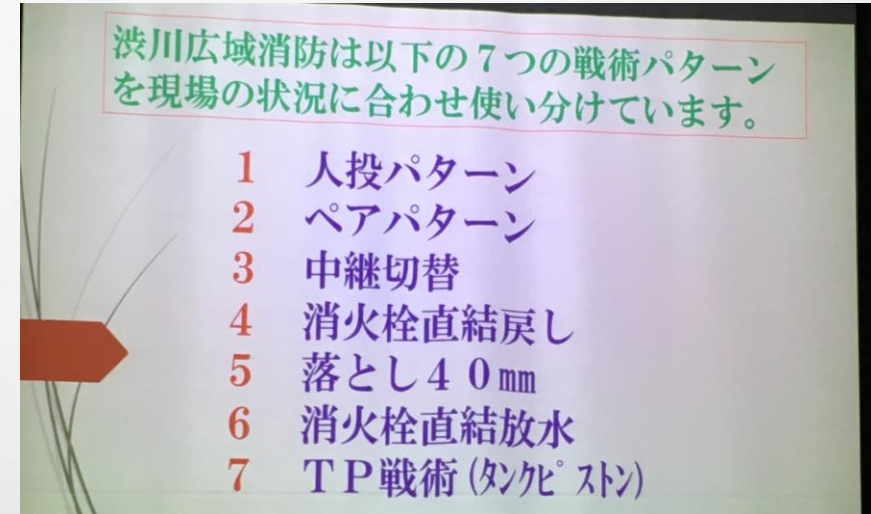
戦術

- 1火災に対して4段階出動
- 昔の戦術
【メリット】なし
【デメリット】活動隊員が多い、無駄な資材、個々の戦術が違うなど...
- ホースバッグ
3本収納: **140M**以下が根拠。容易に増強等を行うことが可能！
⇒2分以内に放水が可能(**140M**以下)
⇒消防用ホースプロファイターホースシリーズ利用【プロファイター**A**】

戦術



- 地図、道を色分けして侵入経路の効率化をしている



- 戦術をパターン化し、効率よく作業を行えるようにしている

写真



【今の戦術】

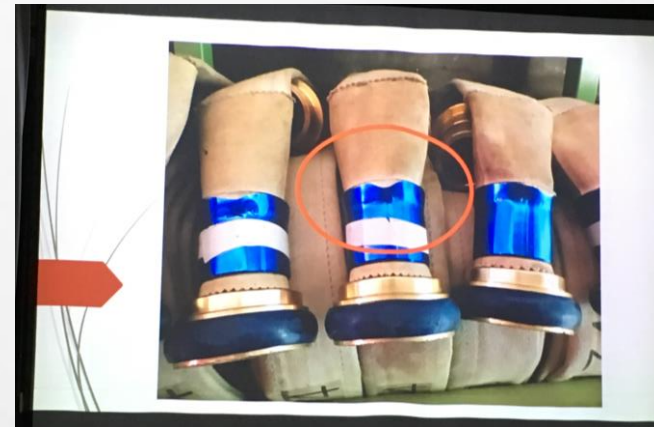
現在は渋川消防としての戦術がしっかり確立されているため、水利部署も迷うことなく、無駄のない部署を行っている。

【今の戦術のメリット】

- ・少ない人員で活動することができる
- ・少ないホースで活動することができる
- ・無駄な水を使わない
- ・他事案に対して転戦可能車両を確保できる
- ・全員が同じ考えで戦術がくめる
- ・職員一人一人が自信を持って活動できる
- ・早い放水・防御活動ができる

【今の戦術のデメリット】

- ・無し



【渋消式ホースバッグ等】

【65mm】 約30kg

【40mm】 約10kg

【50mm】 約20kg

カラフルな分水器

昔の延長方法

今の延長方法

【65mm「コロコロセット」】

質疑

質問

1. 消防団との連携は？
2. プロファイターAのコスト
3. ジョイントの色数は？

答弁

1. 先着した消防団から水を送ってもらい交代する(先着した車両の有効活用)
団員との訓練連携や運転指導をしている
2. イニシャルは高いけど耐用年数を考えると安くなる(7年)
3. 5つにわけて、指揮を分かりやすくしている

質疑

質問

1. 組織の縦社会では考えさせないことであったが、あえてこの形にしたのは？

答弁

1. できないであきらめるのではなく、考えてできるようにしていく。

総括

- 消防式防戦術では、あえて縦社会の規律を崩すことでの、【自分で考える】活動を推進している。しかし、軍、警察などと同じく、縦社会だからこそその統一、規律というものは【命を懸ける職】においては重要なことである。
- 連携面では各自治体でもそうだが、消防団との連携をとる事での円滑な消火活動、災害時の協力は大切なことであり、それらを実践できていることは大きなメリットである。
- 常に器材やデータを情報収集し分析、検証し必要であれば更新、変更をしていく柔軟な姿勢は時代の変化だけでなく、日々の消火活動のスピードUPにも繋がります。隊そのもののレベルアップを日々しているものである。
- 都留市においてはこのデータ化と分析、必要に応じた変更の概念は**2018**年度より開始されている**SAFE COMMUNITY**事業にも繋がるものであり、取り入れていく必要もあると感じる。